

根本忠寛氏

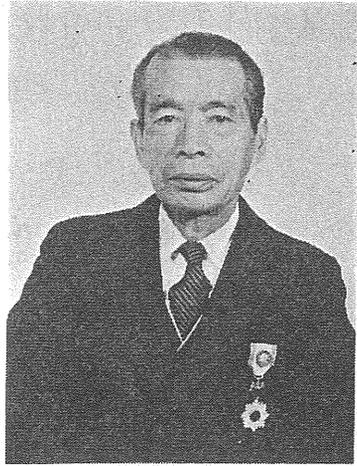
勲四等に叙せられる

元地質調査所北海道支所長根本忠寛氏が 昭和49年春の叙勲で勲四等旭日小綬章を授与され 去る5月15日その伝達式が行なわれました。心からお祝を申し上げます。

氏は 昭和3年東北帝国大学理学部岩石鉱床学教室卒業後ただちに同大学の大学院に進まれましたが 昭和5年新設の北海道帝国大学理学部地質学鉱物学科に招聘されて講師となり 爾来昭和12年まで岩石学講座において学生の教育指導並びに千島列島の調査研究に従事しました。昭和12年時局の要請によって 北海道立工業試験場の資源調査部が拡充されるや 囑望されて北海道庁技師となり その調査部を総括担当し 数々の業績を残されました。戦後 北海道の地質調査を積極化するため 商工省地下資源調査所札幌出張所に 道立工業試験場資源調査部を統合して 地質調査所北海道支所を発足させることになりましたが 氏は昭和23年商工技官に任命され この機関統合を円滑に推進する原動力となりました。

昭和24年9月 地質調査所北海道支所長に任ぜられ 同33年10月退官されるまでの9年間余所員をよく統率指導し 金属・非金属および燃料資源等の調査研究を積極的に推進すると同時に 本州に比べて遅ればせながら スタートした道内の5万分の1地質図幅調査事業を軌道にのせ 今日の輝かしい成果をもたらしています。

氏の岩石学の研究は 花崗岩から火山岩まで幅広く



根本忠寛氏

また 岩石鉱物の記載はきわめて正確緻密ということで定評があり 岩石研究者の範となっておりますが とくに「火成岩の化学的分類に関する一私案」および「本邦産花崗岩の化学性」の論文は わが国における岩石学の一大進歩を促したもので これによって昭和35年北海道大学より理学博士の学位を授与されています。

また 氏は北大理学部在職時に わが国で初めての縮尺10万分の1の帯広 大樹両地質図幅を完成公表すると同時に 調査の足を千島列島にも伸ばし その成果の一部を得撫島図幅説明書として発表されておりますが 現在その岩石標本とともに貴重な資料となっております。

昭和15年 北海道工業試験場で氏が地下資源開発促進のために編集発行した50万分の1北海道地質図は 時あたかも太平洋戦争直前であったために軍機保護法に抵触するものと認定され 一般への頒布を禁止されたことは時局柄とはいえ まことに惜まれてならないことですが 戦後氏はこれを基にして北海道現勢図譜の一部として

60万分の1北海道地質図を編集発行し 北海道の総合開発に多大の貢献をしています。以上は氏の功績の一端ですが 明治中葉から大正年代にかけて後退した北海道の地質調査事業が 昭和初期北大理学部の開学を契機としてようやく活況を呈し 今日進展をみるに至ったその過程において 氏の残された足跡はまことに大きくその功績は万人の認めるところであります。氏は現在 札幌商科大学の教授として 次代の人材養成にあたっておられます。

なお 氏の現住所は次のとおりです。

現住所 札幌市中央区北7条西18丁目2番地 ☎060
電話 (011) 631-4064

(文責 上島 宏)

